# 身近な川 理解深める

## 都城大淀川サミット初開催

宮日 22.11.7

第1回都城大淀川サミット大会は、都城市吉尾町の都城浄化センター「清流館」で1日あった。都城市や三股町など大淀川上流域の自治体関係者や市民ら約60人が参加、講演や漁の実演を通して身近な河川環境に理解を深めた。

投網を使った漁の実演などがあった第1回都城大淀川サミット大会

大淀川の治水や環境などを考えながら川の文化や遊びなどを保存しようと、市民有志でつくる都城大淀川サミット（奈下信芳会長）が初めて企画。宮崎市の県環境保全アドバイザーの鈴木素直さん(80)が「川は生きている」と題して講演した。

鈴木さんは、都城市内に水神様が80カ所以上祭られていることを挙げ「学校や地域の取り組みの中で、川にまつわる歴史や文化に子どもたちの目を向けさせるべきだ」と訴えた。

この後、参加者は近くの川に移動。都城淡水漁業協同組合の組合員による投網やかごを使った漁の実演があり、ウナギや魚が捕れると参加者から歓声が上がっていた。

奈下会長(81)は「川と触れ合うことで、身近にある川を良くしたいという気持ちを持ってもらえるといい」と話していた。